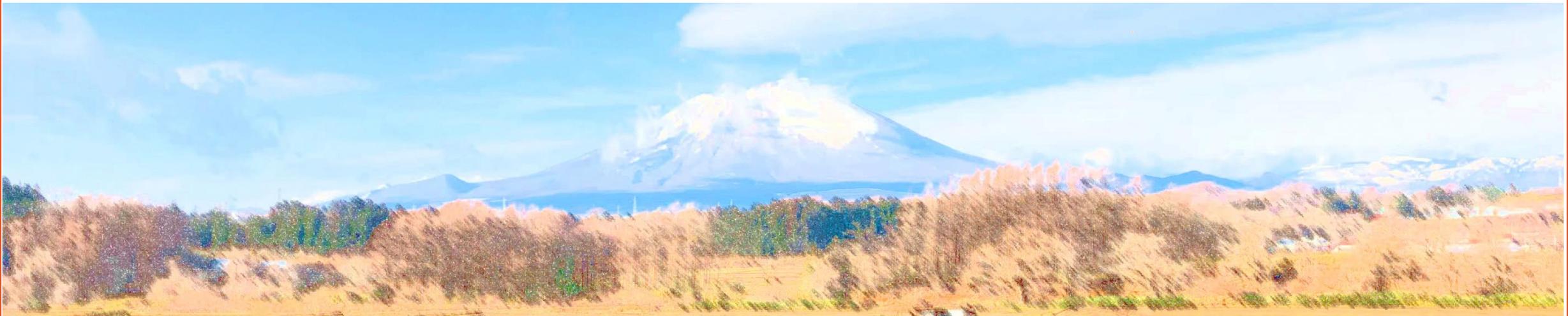


(仮称)道の駅もりおか
運営候補者募集ご提案書(抜粋)

啄木の里は風景そのものがテーマパーク
美しいロケーションを世界へ向けて発信！



Ⅲ 具体的戦略

② 具体的戦略

従来道の駅の利用が少なかった年代層を掘り起こすとともに、リピーターを増やす！

戦略1 若年層(特に女性)をターゲットにした情報発信。

戦略2 家族連れで楽しめるオリジナル商品、メニュー等の開発。

戦略3 繁忙期には地場産品を地域外に発信できるイベントを、閑散期には地域の人に地域外の産品を紹介するイベントの開催。

③ 戦略の実行策



【情報発信】

- ・アニメ『啄木鳥探偵處』の放送・配信に合わせ、開業前から機運づくりを開始。
事業者決定後、ホームページやSNSで「啄木の里」情報を発信し、開業前に機運を醸成。折しも、令和2年春から、TOKYOMX、BSフジやCSファミリー劇場などで、石川啄木と金田一京助を主人公にしたアニメ『啄木鳥探偵處』が放送・配信される予定。それに合わせて、「啄木の里」盛岡・玉山を発信する。
- ・「(仮称)啄木の里ファン倶楽部」を開設し、会員(市民)の情報発信を後押し。
インスタグラムやツイッターなどに「啄木の里」盛岡・玉山を自主・自由に発信してくれるメンバーを募り、「(仮称)啄木の里ファン倶楽部」を開設。発信実績に応じてポイントを付与し、開業後の特典を与えるなどして、市民等によるアメンバー的な情報発信網を構築し、SNS世代の掘り起こしにつなげる。
- ・開業直前には、カウントダウン・ツイート等で洪民地区の四季や風情を発信。
開業予定の1年前から、カウントダウン・ツイートを展開。洪民地区を中心とした「啄木の里」盛岡・玉山の風景や祭り、地域の人々の営みの写真等をホームページやSNSにアップし、市内外の人々の関心を喚起するとともに、開業後の来場意欲を醸成する。

【産直】

- ・通年で提供できる仕組みづくりと、健康志向に沿った農産物や花を提供。
地場農産物コーナー(地元生産者による産直)
減・無農薬、有機栽培コーナー(近郊の減・無農薬、有機栽培農家)
- ※一人暮らしの高齢者等を対象とした移動販売や見守り活動と連携し、軒下集荷による、高齢化で出荷できない農家の農産物の販売も検討
※通年で販売する農産物を確保するため、JAや県外産直施設との連携も検討

【オリジナル商品】

- ・『啄木ビール』(啄木が好きだったビールを市内ビール製造場と協力して商品化)
- ・『コマイヌ・チョコ』『コマイヌ・サブレ』(天満宮の愛らしい狛犬をモチーフにチョコレートとサブレを商品化)など

【地場産品の特産品化】

- ・地産地消ロールケーキ(岩手ファームの卵、地元産小麦、黒平豆等)
 - ・黒平豆スイーツ(ババロア、パウンドケーキ等)
- ※地場産品の特産品化にあたっては、当社の自社製造場だけでなく、ユートランド姫神の食工房とも連携。たまやま振興株式会社や生産者、事業者と協力して開発・製造・販売を行う。

【飲食メニュー】

- ・盛岡の代表的食文化や玉山地域の郷土料理、啄木の好物をテーマに家族連れで楽しめるメニューを提供。
盛岡冷麺、盛岡じゃじゃ麺(盛岡三大麺)
手打ちそば(啄木の好物、玉山の特産)
自家製ひつまみ(郷土料理、地元食材)
もりおか短角牛丼(地元食材)
十五のころ定食(古代米、雑穀米等地元食材を15品目使う)
啄木ライスカレー(啄木の好物、野菜を使った昔懐かしい味に)など
- ※冬期間には、市外有名店のラーメンなどを期間限定で紹介

【軽食メニュー】

- ・地元の食材やおすすめの味を軽食定番メニューにのせて提供。
そば粉ソフトクリーム
もりおか短角牛肉まん、もりおか短角牛×福田パン
市内コーヒー店の自家焙煎コーヒー
有機栽培ハーブティー、有機栽培ミントソーダ など

【イベント】

- 季節や市内各地で開催される催事・祭りに合わせてイベントを開催。
- ・観光シーズンは、観光客等に地域の食や工芸品等を紹介するイベントを企画(出展料無料、販売手数料なし)。
特設商店街、軽トラ市、キッチンカー屋台村、フリーマーケット、クラフト市等
- ・観光客の閑散期は、姉妹都市や啄木ゆかりの地等の観光や物産などを紹介するイベントを企画(入場無料)。
うるま市、文京区、ビクトリア市、函館市、札幌市、小樽市、釧路市、高知市 など
- ・盛岡国際俳句大会に合わせ、啄木をテーマにしたイベントを開催。
「啄木登山」(地元愛好家と協力、姫神山山頂で歌を詠む等)
- ・来場者からの歌や俳句を常設で受付。毎月入選者を発表し、特産品を贈るなどリピートにつなげる。

【交流スペース】

- 交流スペースにはキッチンスタジオを併設。家族連れや子育て世代、若者、女性をターゲットにした講座等を企画(使用料、参加料無料。一部実費のみ徴収)。
 - ・親子料理教室(キッチンスタジオを活用、子育て支援の一環)
 - ・おいしいコーヒーの淹れ方(市内コーヒー店と連携、冬期間対策)
 - ・啄木講座(石川啄木記念館と連携し、講座や散策会を企画)

※団体食事客は飲食コーナーの予約客として対応

【冬期間対策】

- ・冬期間には、市外有名店のラーメンなどを期間限定で紹介
- ・観光客の閑散期は、姉妹都市や啄木ゆかりの地等の観光や物産などを紹介するイベントを企画(入場無料)。
- ・おいしいコーヒーの淹れ方(市内コーヒー店と連携)※以上再掲。
- ・冬期間の収益確保のため、特産品のネット販売も検討します。

IV 地域振興への貢献

①地域との連携

飲食コーナーでの原材料仕入や売店での土産品仕入、産直コーナーでの農産物確保、交流スペースや屋外催事スペースを使ったイベントなどを通じ、地域の生産者や団体、文化・観光施設との連携を進めます。

◆地場農産物、土産品の仕入れ

- ・地元生産者や新岩手農業協同組合玉山支所と連携し、産直販売用の農産物を確保します。
- ・飲食コーナーでは地産地消をモットーに、可能な限り原材料を地元から仕入れれます。
- ・農福連携に取り組む市内の障がい者施設等と連携し、栽培した農産物を飲食コーナーの原材料として仕入れれます。

◆オリジナル商品、特産品の共同開発

- ・地元商店や製造業者と連携し、道の駅のオリジナル商品や特産品を開発します。
- ・ユートランド姫神と連携し、ユートランド姫神の食工房を活用した特産品の開発に取り組みます。

◆イベント等への出店

- ・地元商店や盛岡商工会議所玉山支所と連携し、イベントとして開催する特設商店街や軽トラ市、キッチンカー屋台などへの出店を依頼します（出展料や販売手数料は原則無料。一部実費負担のみ）。

◆交流スペースでの共同企画

- ・石川啄木記念館や姫神ホール等地域の文化施設と連携し、交流スペースを使った共同企画展や、各文化施設の催事と連動した協賛企画展などを開催します。
- ・高齢者団体、各種愛好家グループと連携し、交流スペースでの展示会の開催や工芸の実演などを行います。

◆施設間連携による相互集客

- ・石川啄木記念館をはじめとする地域の文化施設、年間10万人以上が利用しているユートランド姫神と連携し、周遊・回遊コースの設定や、啄木をテーマにした散策コースを設定するなどして、相互集客に努めます。
- ・フリーマーケットやクラフト市は、隣接する石川啄木記念館やイオンスーパーセンターとも連携し、それぞれの駐車場スペースなどを活用して開催し、相互利用の促進につなげます。

②地域貢献

地域との連携に加え、スタッフの雇用や新たな産業と人材の育成を通じ、若者の市外流出の抑制と移住定住者の増加に貢献するとともに、交流スペースを活用した催事を通じて地域の方々の生涯学習や世代間交流、都市と農村の交流などに貢献します。

◆雇用と起業支援

- ・スタッフの確保にあたっては、地元新卒者並びにUターン移住定住希望者を率先して採用します。
- ・飲食スペースに設置するチャレンジブースでは、地域の若者やUターン移住定住希望者に起業のビジネス機会を提供し、数年後の起業・自立経営を支援します。

◆新たな産業と人材の育成

- ・オリジナル商品の開発、とりわけ『啄木ビール』の開発により、原材料となるホップの栽培を新たな栽培目（土壌や気候等を検討の上産地化）として展開できます。
- ・収穫したホップの出荷先が事前に明確になることで、新規就農の可能性も広がり、農家の後継者問題や遊休農地の活用等にもつながる可能性があります。
- ・特産品の開発は、商品化までは当社が中心となって進めますが、商品化のめどが立った時点で製造事業者を募り、地域での起業や新規事業の立ち上げにつなげます。

◆地域福祉への貢献

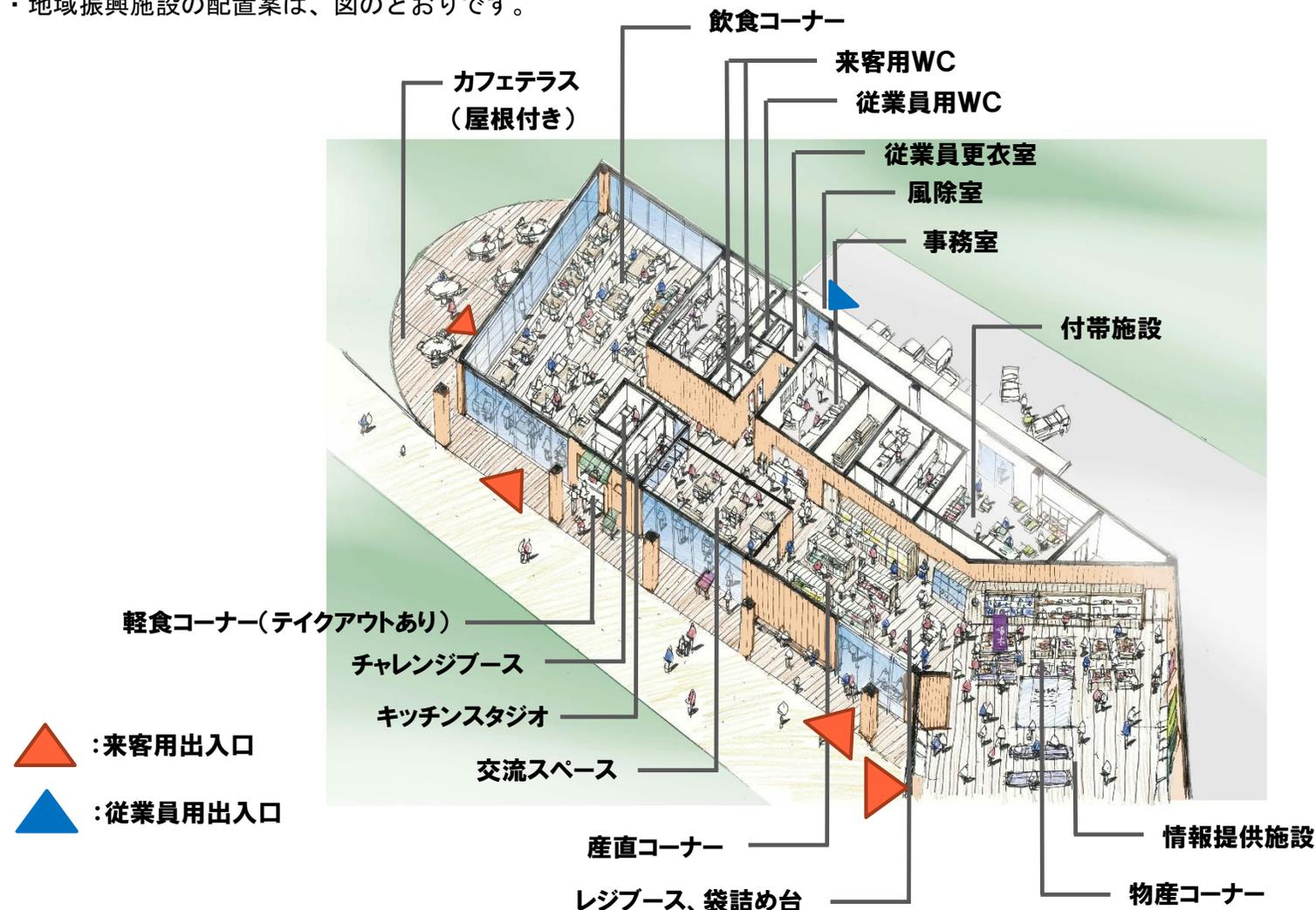
- ・農福連携に取り組む障がい者施設等から農産物や農産物加工品を仕入れることで、各施設の売上と障がい者の工賃アップに貢献します。
- ・高齢者団体と連携した交流スペースでの展示会の開催や工芸の実演など通じ、高齢者の生涯学習の推進に貢献します。
- ・交流スペースでの親子料理教室の開催や、親子連れで楽しめるメニューの提供、啄木ライブラリーの整備やイベントの開催などを通じ、子育て支援に貢献します。

V 経営・管理計画

①施設像

当社の提案で最も重視したのは、飲食コーナーからの岩手山の眺望です。
道の駅全体の施設配置については、基本計画に示された第4案を基本に考えました。

・地域振興施設の配置案は、図のとおりです。



※外観及び内装は、できるだけ明るくしたいと考えています。

主な施設規模	面積
トイレ	290 m ²
情報提供施設	100 m ²
飲食コーナー	180 m ²
厨房	60 m ²
軽食コーナー	13 m ²
チャレンジブース	13 m ²
物産・産直	300 m ²
キッチンスタジオ	20 m ²
交流スペース	90 m ²
事務室	50 m ²
付帯施設(バックヤード等)	210 m ²
来客用トイレ	32 m ²
従業員トイレ・休憩室	6 m ²
通路(産直から飲食コーナーへ向かう部分)	54 m ²
付帯施設内通路	11 m ²
計	1429 m ²